



ブライトン

サセックス大学はイギリス南部に位置するブライトンという町にあります。ブライトンは港町として有名ですが、内陸部にも古い町並みが残っており、牧場やレンガ造りの家が立ち並び、2000年前に造られたローマ式の道路などもあります。2018年に英国ヘンリー王子がメーガン妃と結婚し、女王がヘンリー王子をサセックス公爵に叙したことで話題になりました。また、ブライトンは市民活動が活発で環境問題やLGBTなどの社会問題に対して集会やデモが実施されたり、野党労働党の2019年度年次総会が開催されるといった「政治の町」という一面もあります。

ブライトンにあるRoyal Pavilion ブライトンの丘からの眺め



キャンパスライフ

現在、University of Sussexの中にある独立組織 Institute of Development Studies(IDS)というところで開発学(Development Studies MA)を学んでいます。IDSには世界58か国から200名近い生徒が集まっており、多様性に富んだ環境です。Term1(9~12月)ではIdeas in Developmentと Political Economic Perspective of Developmentを専攻しており、人類学や哲学といった分野を取り入れ包括的に開発理論を学びつつ、政治経済の視点に特化して途上国のガバナンスや民主化について講義を受けています。講義の後には90分のディスカッション時間があり、バックグラウンドの異なる生徒と授業で学んだことについて議論します。



ロータリー1145地区

10月28日にロータリー1145地区(Storrington & Pulborough District)でプレゼンを行いました。1145地区は毎週月曜日にミーティングを開催しており、本会には約20名の方が出席されました。プレゼンでは、自分のバックグラウンドや長崎/佐賀について、大学院で学びたいこと、卒業後にやりたいことなどをお話しし、プレゼンの最後には様々な質問をいただきました。地元のことや、自分の将来について意見/質問をいただき、過去や今後を振り返るいい機会になりました。ミーティング後はホストロータリアンのデビッドさんのお宅にお邪魔させていただき、自家製クッキーや自家製ビールをいただき「イギリスの家庭」を体験させていただきました。学校内では多国籍な学友との交流が多いため、ロータリーでの活動を通して「イギリスらしさ」を経験することができました。今後も様々なイベントに出席させていただく予定です。



Rotary International in Great Britain and Ireland

9月29日にロンドンで開催されたロータリーオリエンテーションに出席しました。イギリス/アイルランドにいるロータリー奨学生が一同に会しました。ほとんどの留学生にとって渡英後初の週末、且つ授業開始前日ということもあり、全奨学生が集まったわけではありませんでしたが、それでも約20か国の生徒が参加しました。その中で奨学生数の最大多数はアメリカでしたが、次いで日本が第2位でした。本会ではイギリス生活のコツや文化の違いなどが紹介されました。また生徒同士の交流の時間もあり、違う大学のロータリー奨学生と交流することができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

